2024 年度（通算）第 11 回名桜大学高大接続勉強会報告書
（テーマ）「名桜大学高大接続事業の成果と課題」

2024 年 8 月 20 日(月)、(通算)第 11 回名桜大学高大接続勉強会を本学学生会館 6 階スカイホール A において開催しました。北部地区の県立 7 高等学校から 9 名（校長・教頭や進路指導担当教諭）と名桜大学 32 名（学長、学部長、学科長をはじめ事務局長、教務部長、入試・広報課長、キャリア支援課長、リベラルアーツ機構教員、その他の教職員）、合計 41 名のご参加をいただきました。

「名桜大学高大接続事業の成果と課題」をテーマに、佐久本功達リベラルアーツ機構長が進行を務めました。第 1 部では「2019 年度入学生の 4 年間の学び」について、高安美智子リベラルアーツ機構教員からの報告がありました。今回は、送り出した学生の入学後の成績や卒業及び進路状況等について知りたいという高等学校の先生方の要望を踏まえて、「2019 年度入学生の 4 年間の学び」の報告を行い、引き続き名桜大学高大接続事業の成果と課題や入学時の数学基礎力と大学の学びとの相関等について協議しました。

2022 年度の（通算）第 9 回高大接続勉強会において、木村堅一副学長より、「2018 年度の入学生の 4 年間の学び」の報告を行い、協議の論点についても提案されましたが、十分な協議の時間がなく課題が持ち越しになっていたことから、今回は 2018 年度入学生の結果も併せて協議をすることにしました。

第 1 部では、入学時の国語、数学、英語の基礎力と 4 年間の学びの結果である GPA、退学・除籍率、卒業率、進路決定率等について、北部地区 7 高校出身学生とそれ以外の学生との比較・分析結果の報告を行いました。北部 7 校出身学生の大学での学びは大きく変容しており、たとえ基礎力に困難を抱えていても、本人の努力次第で克服できることが示されました。このような分析結果から、学生達が頑張っている様子が見て取れました。その理由として報告者は、本学では「初年次教育の専任教員による担任制により、学生への丁寧な指導が功を奏しているのではないか。名桜大学には学習支援センターもあり、学生が頑張れる環境があるのではないか。家族との関わりの中での学生生活は、地元の大学で学ぶメリットになっているのではないか。」と総括しました。

写真　勉強会の様子（8/20）

第２部では、第１部の報告を受けて参加者が３グループに分かれて意見交換を行いました。

１．高大接続事業（高大接続勉強会、入学前特別講座）について
・高校の現場の先生方との情報交換は、生徒・学生を一緒に育成しているという考えができる。 ・高大接続勉強会は、今後も継続していただきたい。 ・大学で頑張っていることを高校に伝える貴重な機会である。 ・先生がもっと大学を知る必要があるという意味で有意義である。できれば高校生にもっと知ってもらいたい。 ・情報交換もしながら大学のニーズに合った生徒たちを進学させたい。頑張れる生徒を送りたい。 ・高大接続勉強会は、大学説明以外で大学・高校の情報交換する場として、良い成果をあげているのではないか。 ・入学前特別講座で、しっかりとした学習態度をつくって入学することができれば、よいスタートを切ることができる。 ・入学前学習で大学でのモチベーションが高まっているのは地域の大学の良さである。 ・入学前特別講座は、４日間だけではなく、夏休みも利用して長期間あった方が良いのではないか。
２．入学時の数学基礎力は大学の学びに関係があるという結果に対して
・数学ができる、できないではなく、数学を勉強してきた学生は**学習習慣**などが影響しているのではないか。 ・数学は勉強をやったかやらないかが直ぐに出る。僕はできる。私はできる。できるから**楽しさに**繋がる。だから**もっと勉強したい**と思えるようになる。 ・数学の問題を解く過程で、乗り越えた**成功体験**が影響しているのではないか。 ・国語と英語は家庭環境との関係もあるが、数学は家庭環境にあまり左右されない。数学は、積み上げていく教科なので、数学の勉強をする子は、分からないときに**諦めるのではなく、チャレンジする力**がある。 ・**勉強する習慣**との関連が深いと感じる。**粘り強さも**ついているのではないか。 ・数学を勉強してきた子は、思考力や推理能力があり、粘り強く勉強ができ**集中力**があるのではないか。 ・数学のセンスが、大学の授業でも**考えて繋げていく力**として活かされているのではないか。 ・数学的な思考が他教科にも影響を与えているのではないか。数学的な思考は大学生活でも大切である。 ・数学的思考力・分析力・表現力は、他の学問を学ぶ上でも必要不可欠なものだと考えている。
３．その他の意見や要望など
・高大の授業の単位の読み替え（例　西原高校とキリスト教学院大学） ・協働して問題解決ができる生徒が欲しい。高大で共通の目標にできればよい。 ・GPS アカデミックの結果から、ストレス耐性、回復力、自己統制力はＡ群が高いのはなぜか？ ・中学の時から苦手なものから逃げる傾向があり、（北部地区）学力をつけるという意欲が低い。 ・大学の先生方が行っている研究を志望動機に関連付けている学生が少ない。 ・出前講座の活用も十分ではない。 ・北部の子は、基礎力は低いが表現力や主体性を持っているように感じる。それで GPA が高くなるのでは。 ・高大接続勉強会は、会の趣旨がわかりづらい。 ・地域と育てるという意識が弱い。 ・名桜大学は高校生との関りや、中学生とも関りをもつといいかもしれない。 ・どういった点を情報交換したいのか、事前に通知・共有していただけると幸いです。

「今回初めての参加でしたが、高大接続の発展と改善に向けて名桜大学が地元の高校と協働して取り組んでいこうとする姿がとても心強かったです。有意義な情報交換ができて、とても良かったです。」「北部の学生の大学での努力と、高校の先生方と『共に青年を育てる』といった状況になるといいですね。」等の声が寄せられました。

以上の結果から、名桜大学高大接続事業は、北部地区の高等学校と本学の教職員の相互理解の場として、機能しており、入学前特別講座は、学ぶ意欲の喚起、目的意識の醸成、有意義な学生生活を送るための一助となっており、高大接続事業の目標「将来の夢を描き社会で活躍できる人材育成」に繋がることを実感しました。

なお今回も、高大それぞれの理解を深め合う機会となり、さらに参加者各位からも貴重なご意見や提言をいただき、有意義な勉強会となりました。

2018 年度に始まった名桜大学高大接続事業「高大接続勉強会と入学前特別講座」は、今年で 7 年目（通算 11 回）となりました。本学の高大接続事業は、入学前教育から卒業までの有機的な教育の繋がりを意識しながら、自己点検・評価を行い、入学後のカリキュラム運営や入学者選抜に活かしていこうと全学体制で取り組んでいます。ところが高等学校においては、進路指導担当教員が変わる度に「初めての参加で、会の趣旨がわかりづらい。」という意見が寄せられます。

このことから、本学の高大接続事業は、高等学校の理解が十分得られるまでに至っていないという課題があります。今後は、この課題改善に向けて、検討する必要性を強く認識しました。

◆ 名桜大学の特色ある取り組み　入学前教育から初年次教育、卒業研究までの学生・学修支援

図１　入学前教育から新入生ウイクリー、初年次教育等の学生サポート団体の支援の様子

次回のテーマは、「キャリア教育の方法、就職活動の支援をどのようにしているのかを知りたい。」という高等学校の要望を受けて、「名桜大学のキャリア支援（仮題）」の予定となっています。

（通算）第 11 回高大接続勉強会にご参加くださいました高等学校及び名桜大学の教職員の皆様に心よりお礼を申し上げます。引き続き、高大の教育改善に励み、「将来の夢を描き社会で活躍できる人材育成」に連携して取り組んでいきましょう。

2024 年 9 月 10 日（火）文責　高安　美智子（リベラルアーツ機構）